

## 拒否者が続々!! 各地で裁判員闘争

### ■愛媛(松山地裁11/24~26)

24日(火)に連絡会のなかま8人で松山地裁前で抗議行動。「不安でいっぱいです」という候補者に「拒否できます」と言うと「そうなんですか?」とちょっとにっこり。松山地裁は67人を呼びつけ32人が出頭、うち5人が新たに拒否、5人が「不適格」となった。「不適格」の理由は不明だ。意図的に裁判員を選び出し、冤罪と重罰を乱発する制度の正体が明らか。(平野)



### ■奈良(奈良地裁11/24~30)

裁判員候補者選任の20日(金)と裁判開始日の24日(火)、藤原好雄代表を先頭に奈良地裁前で抗議行動。今回の裁判は集団強姦致傷事件で被告が4人、裁判は5日間で実質審理は2日間しかない。120人のうち来たのは49人、うち10人が辞退、不公平な判断をする恐れありと4人ほどが不選任となった。さらに検察・弁護側双方が理由を示さず不選任を申し立てた候補者が約20人いたそうだ。(西川)



### ■茨城(水戸地裁11/25~26)

25日(水)はあいにくの雨。その中を県内各地から15名が水戸地裁前に大結集して抗議行動。呼び出し状が届いた候補者68人のうち37人が出席とのこと、少ない! これに先立ち21日(土)、つくば市内で「やっぱりいらない裁判員制度・茨城県集会」(主催:

実行委)が開かれ、川村理弁護士が裁判員裁判の恐るべき実態を暴いた。討論では候補者通知が届いたばかりの男性が「絶対に応じない!」と意見表明した。(日下部)



### ■栃木(宇都宮地裁12/1~4)

1日(火)、早朝から宇都宮地裁前でピラマキ抗議行動。裁判所前に「百万」以外の団体の姿はなかった。裁判も傍聴したが、検察官は、殺人事件の持つおどろおどろしさを強調するための演出として、殺害状況についての陳述では、声の抑揚をつけて語るなどして、「ショー」としての裁判に徹していた。この日に向けて11月23日に白井晶子弁護士(東京第2弁護士会)を招いて、緊急学習会も行った。(馬渡)



### ■長野(長野地裁12/8~10)

「裁判員制度を考える長野連絡会」は呼びかけ人の福島住職を先頭に20名で抗議行動に立った。殺人事件だが被告が認めているため量刑を争うもの。出頭率は58%、43の傍聴席に676人がつめかけた。23年の求刑に22年の実刑判決、確実に重罰化している。傍聴した仲間は「人を裁くということが、こんなにも軽々しくてよいのか」と言っていた。(小野)

### ■群馬(前橋地裁12/8~11)

8日(火)前橋地裁で弁護士らと10数名で終日の反対行動に取り組んだ。裁判所から呼び出しを受けた80名のうち当日は34名しか応じなかった。そ

の内3名が辞退して「出頭率?」42.5%、受諾率39%弱という結果に。また、マスコミは「傍聴希望に266名」と報じたが、実は「報道・司法(警察検察)関係者が中心」で、それに、賛成派の大学教授のゼミ生の強制動員というのが実体。民衆は傍聴も拒否した。(大塚)



### ■佐賀(佐賀地裁12/14~17)

佐賀で反対の声をあげている小山一郎弁護士の呼びかけで、福岡の「市民のための刑事弁護をともに追求する会」や福岡県や長崎県の百万の仲間が、14日朝8時、佐賀地裁前に集まり抗議の声をあげた。今回はなんと殺人事件。当初、被告人は殺意を否定していたが、公判では一転して被告・弁護側が殺意を認めたというもの。この背景に何があったのか疑問が残る。(菊地)



### ■沖縄(那覇地裁12/15~17)

15日、那覇地裁前で8時から10数名で抗議行動。「裁判員制度はいらないインコ」もかけつけてくれた。また、夜には抗議集会も行った(2頁参照)。候補者の中には「宮古島から来た」という人もいた。みな口々に「法律の知識もないのに不安」と語っていた。この日に向けて11日に県庁記者クラブで記者会見を行い、岡島実弁護士と崎浜秀俊さん(沖縄の会共同代表)が「ただちに廃止すべき」と訴えた。(前川)

